

平成4年度は、センター設立6年度として組織・体制の充実をはかり、引き続き、水辺空間の保全と利用のあり方等の検討。水辺空間の施設整備に係る技術的な手法の研究開発等に重点的に取り組んだ。それらと併せて国、地方公共団体等より委託を受けて技術協力を行うとともに、データバンクの充実にも努めた。また一般の広報、普及啓発活動を積極的に行った。

その具体的な実施状況のうち主なものは、次のとおりである。

1. 高規格堤防（スーパー堤防）、超過洪水対策に係わる水辺空間整備に関する調査研究・技術開発

- 1) 沿川整備構想策定のための諸調査を行った。
- 2) 高規格堤防の設計・施工等の技術基準策定のための調査研究を行った。
- 3) 高規格堤防実務必携策定のための諸調査を行った。

2. 流水保全水路・水質浄化対策に関する調査研究

- 1) 下水道整備流域からの流出水質に関わる調査研究を行った。
- 2) 河川内浄化施設の維持管理システムに関する調査研究を行った。
- 3) 流水保全水路内における水質浄化手法に関する調査研究を行った。

3. ふるさとの川モデル事業・マイタウン・マイリバー事業等の水辺空間整備に関する調査研究・技術開発

- 1) 「ふるさとの川モデル事業」「マイタウン・マイリバー整備事業」等に関する調査研究と計画づくりを行った。
- 2) まちづくりからみた水辺空間の機能、役割等について調査研究を行った。
- 3) 水辺空間の管理・運営のあり方について調査研究を行った。

4. 海岸・河口・港湾に係わる水辺空間整備に関する調査研究・技術開発

- 1) 伊勢湾等における河口や海岸の保全をベースとした水辺空間のあり方について調査研究を行った。
- 2) 沿岸域の防災と利用に寄与する多目的沖合制御施設（人工バリア）について調査研究を行った。
- 3) 砂浜及び干潟の水質浄化機能について調査研究を行った。

5. 地域開発・都市開発と水辺空間整備の調和に関する調査研究

- (1) 地域開発と水辺空間整備計画について調査研究を行った。
- (2) 河川と都市が一体となった土地利用計画、都市施設整備計画について、地区内外の整備手法等の調査研究を行った。
- (3) まちづくりを支援する水環境保全システムについて調査研究を行った。

6. 人間生活と調和のとれた自然豊かな川づくりに関する調査研究・技術開発

- (1) 水辺空間における動植物の生息環境に関する調査研究を行った。
- (2) 河川の自然環境調査の手法及び体制に関する調査研究を行った。
- (3) 多自然型河川工法について、その適用性、設計手法が国に適した技術開発を行うための調査研究を行った。
- (4) 多自然型川づくりの一環として魚がのほりやすい川づくりの調査研究を行った。

7. その他の水辺空間整備に関する調査研究・技術開発

- (1) 水辺空間に関するデータバンクシステムについての調査研究を行うとともに、データの収集にも努めた。
- (2) 海外の水辺空間整備事情について事例的研究にも努めた。
- (3) 河川の親水化と水辺事故防止に関する調査研究を行った。
- (4) 水辺のシビックデザインについて景観設計計画・景観評価手法等の調査研究を行った。
- (5) 水辺空間整備に関して、整備効果、維持管理及び住民参加手法等について調査研究を行った。

8. 水辺空間に関する広報・普及啓発

- (1) シンポジウム、講演会、研究会等の開催
- (2) 水文化誌「FRONT」の発行
- (3) 機関誌「RIVER FRONT」の発行
- (4) パンフレット、ポスター、カレンダー、書籍等の発行
- (5) 「人と自然にやさしい川づくり大賞」の選定と表彰

9. 国際協力

- (1) アメリカ・カナダ水辺空間整備調査団の派遣
- (2) 日本とドイツ及びカナダ等との技術交流
- (3) 「日中河川及びダム会議」および「日韓河川及び水資源開発技術協力会議」に参加
- (4) 中国の太湖の総合的な開発と管理についての調査